

彙報

昭和六十二年度 仏教文学会大会 報告

日時 六月十四日(日)

会場 大正大学集鴨校舎

〔午前の部〕(九・三〇)～(二・〇〇)

◇開会の辞 二松学舎大学 青山忠一氏

◇大正大学学長挨拶 安居香山氏

◇研究発表会

会場：大正大学集鴨校舎三二三教室

「敵島本地」の物語をめぐって

駒沢学園女子高等学校 齋部幹生氏

目蓮教母説話と地獄絵

日本学術振興会特別研究員

渡 浩一氏

「延暦僧録」考

―新出逸文を資料として―

大阪大学 後藤 昭雄氏

「平家物語」と落人伝承

高野山大学 日野西真定氏

◇午後の部(二・三〇)～(一六・三〇)

◇総会

◇講演

○修験道靈山にみる聖俗境界の諸相

駒沢大学 長野 寛氏

○西行と真言密教

大正大学 山田 昭全氏

◇閉会の辞

東西合同例会 龍谷大学 石原 清志氏

日時 八月二十六日(水)～八月二十七日

(木)

会場 高野山大学

◇第一日 八月二十六日(水)

◇文学散歩：一三・〇〇～一六・三〇

講師：高野山大学教授 日野西真定氏

場所：奥之院(芭蕉・其角の句碑・その

他)・如意堂(絵解き)・

大円院(滝口入道と横笛

とのゆかりの地)・西行

楼・女人堂・靈宝館など

◇懇親会：一八・〇〇～二〇・〇〇

会場：三宝院

◇第二日 八月二十七日(木)

◇研究発表会：九・〇〇～一二・〇〇

源信伝の展開

立正大学大学院研究生 大塚あや子氏

桐壺帝の罪業

明治学院大学 谷口 茂氏

海道記の表現

高野山大学 下西 忠氏

安居院関係資料「練行啓」のことなど

実践女子大学 牧野 和夫氏

阿弥陀経見聞私の和歌と説話

大阪女子大学 廣田 哲通氏

◇役員会：一二・〇〇～一三・〇〇

会場：会議室

新役員推薦名簿及び会則変更案の

作成

◇臨時總會(四〇三教室)：一三・〇〇～

一三・五〇

新役員承認及び会則変更案が可決

承認された(共に別記)。

◇講演会(四〇三教室)：一四・〇〇～一

五・〇〇

弘法大師の書翰について

高野山大学学長 高木 伸元氏

仏教文学会・説話伝承学会合同例会

日時 昭和六十二年一月十六日(土)

会場 龍谷大学大宮学舎

◇研究発表会

バスク民族の口承文芸
関西外国語大学
大学院 梶田 純子氏

「今昔物語集」の「聖」について
龍谷大学大学院 阿部 兵武氏

「中右記」における百日講経
「法華百座聞書抄」理解のために
龍口 恭子氏

臨終念仏考 一称と聞
龍口 恭子氏

仏教大学 池見 澄隆氏

東部部会(昭和六十二年度・例会)報告
四月二十五日(土) 於 二松学舎大学

「とはすがたり」にみられる遊女往生
思想

杉野女子大学 小川 寿子氏
芭蕉の無常観と平等観
専修大学 阿部 正美氏

仏教文学会見学会
十一月二十八日(土)

於 上野学園日本音楽資料室
講演
「表白—真言声明家より見た表白と

その周辺—

上野学園日本音楽資料室研究員

真言宗豊山派 新井 弘順氏
宝玉院住職

◇臨時展覧—声明資料展(表白)目録—

一 表白集 上中下 三巻

版 袋綴 三冊

解説上人員履 草 寛文四年五月
秋田九兵衛刊

二 諸尊表白抄 第一・二・三 第八
写 仮綴 二帖

印融 延徳二・三年抄 全八巻
江戸前期書写

三 南山旧刻 諸尊表白抄 四・五・六
版 粘帖 一帖

印融 全八巻中 四観音 五文殊
六菩薩部 刊粘刊者不明 全三帖
本の零本 元禄十年 大器師吉右
衛門刊版

四 「諸尊表白抄」全八巻 二帖
版 折帖 二帖

印融 全八巻 巻末追加あり
元禄十年九月二十一日 紙屋利兵
衛刊

五 「清泉相承 表白」増辨手扱
写 折紙 一二葉

宝曆・明和ころ書写 十一葉
各包紙あり

イ 十八道表白

ロ 金剛界加行表白

ハ 金剛界表白

ニ 胎藏界加行表白

ホ 胎藏界初行表白

ヘ 「不動變摩初行表白」

ト 受者表白神分

チ 入庫加行表白

リ 大阿闍梨加行護摩表白

ヌ 伝法灌頂表白

ル 印可加行表白

六 「詞泉相承」彼法 彼法口決并表白
写 粘葉 二帖

増辨手扱

七 水天表白 増辨手扱
写 粘葉 一帖

(本奥書)

「応永五年六月廿四日/宝性院法
印権僧都愉快」

八 荒神表白 写 粘葉 一帖
天文九年庚子五月廿三日書写之

地藏院祐賢

九 無常表白 刊年刊者不明 高野版
版 折帖 一帖

一〇 御影供表白 刊年刊者不明 高野版
版 折帖 一帖

一一 誦經導師表白 写 折帖 一帖
明治四十二年 葦原寂照書写

一二 最勝講表白 写 折帖 十帖
初日~五日 毎日朝座・夕座

江戸期書写

一三 維摩会表白 宝治元年 尊信筆
写 卷子 一軸

一四 維摩会表白 暦応三年 公憲筆
写 卷子 一軸

紙背 佚名抄(代集)

一五 安居表白 建長二年草
写 卷子 一軸

慶長十年二月六日 明忍上人俊正
書写

平等心王院旧蔵

一六 大寛寺五日十座并八祖論議表白

写 仮綴 一冊

「此表白 西方院法印寶璽草之
永徳元六月日云々」

「已下大寛寺八祖表白 賢西僧都
草云々」

一七 表白 八祖并尊所/清瀧
写 列帖 一帖

「明応八年五月五日六日兩日之間
以/或本書写之/金剛資賢融 生
/廿五」

一八 舍利講式 写 卷子 一帖
舍利供養略式 寛観作 一段式

「康安元年七月廿三日書写畢 憲
果」

「寛文二年四月廿五日以借請観智
院持物本書写之了」

一九 二尊講略式 写 卷子 一帖
康安二年 頼仁草 一段式

「御本云/康安二年九月十一日於
江州宝樹寺光舒院佛前供項草之/
二尊佛子慈仁記」

「万治二年二月十一日写之」

二〇 正御影供祭文 写 堅紙 一葉

文化十二年三月上旬 医王院法雲
書

二一 諸祭文 版 卷子 一軸
経師八左衛門刊 刊年不明(宝暦
三年と文化八年の間)

二二 「誦経表白并讀徳」

二四 正保四年正月 四兵衛刊
敬請敬徳之事 写 堅紙 一葉

慶応四年 引接寺真鑿筆
報恩八講説草 写 列帖 一帖

初日~四日 四座

天文十四年八月下旬 於櫻来寺
千淳書写

二五 「説草」 上中下 三巻
版 列帖 三帖

上下院春秋通用 報恩講冬 諸
社通用 諸靈通用

中 菩提院報恩講表白夏 五月晦
日 毎日講

下 朔日 十二日 廿一日
(下巻末) 「慶応三年甲寅/
前川茂右衛門」

西部部会（昭和六十二年度・例会）

五月十六日（土） 於大谷大学

「稲荷と狐伝承」

明徳商業高等学校 大森 恵子氏

「ささやき竹」再読

金蘭短期大学 米井 力也氏

十月十七日（土） 於京都女子大学

大和物語第四段について

「うてのつかひ」と「うさのつかひ」

大谷大学特別研修員 新聞 水緒氏

平家物語の屋代本について

須磨浦女子高等学校 西海 淳二氏

説法と和歌―徳本上人の場合―

愛知淑徳大学 築瀬 一雄氏

十一月十四日（土） 於花園大学

「金鼓」考

京都女子高等学校 檢垣 泰代氏

鬘異記中巻第八段と第十二段

花園大学 寺川真知夫氏

大和文筆館蔵 鈴鹿本『今昔物語集』

副本の書誌について

―巻十を中心に―

園田学園女子大学 梅谷 繁樹氏

十二月十二日（土） 於仏教大学

平安末期往生思想の一考察

―「臨終行儀」を中心として―

仏教大学仏教 笹田 教彰氏

文化研究所

「体源抄」所引の「十訓抄」について

―室町期における享受の一斑―

京都大学大学院 福島 尚氏

室町時代物語「貴船の本地」の鬼の名

―法華経との関連―

立命館大学研究生 三浦 俊介氏

「物忌をしなかつた神」

大谷大学 渡辺 貞隆氏

一月十六日（土） 於龍谷大学

「今昔物語集」の「型」について

龍谷大学大学院 阿部 兵武氏

バスク民族の口承文芸

関西外国語大学大学院 梶田 純子氏

「中右記」における「百日講経」

―「法華百座聞書抄」理解のために―

滝口 恭子氏

臨終念仏考 ―称と聞―

佛敎大学 池見 澄隆氏